28P-am328

実務実習事前実習における医学部生とのチーム医療実習導入の試み

○窪田　敏夫[1], 小林　大介[1], 吉田　素文[2], 島添　隆雄[1]（[1]九大院薬, [2]九大院医）

【目的】チーム医療は今後極めて重要になるが、薬学部生が実際にそれを学ぶ機会は実務実習に赴くまではほとんどない。そこで実務実習事前実習において、医学部生と薬学部生がチーム医療を体験する実習を取り入れることを試みた。今回は、チーム医療実習内容の紹介と薬学部生による実習評価について報告を行う。

【方法】医学部 5 年生（M5）と薬学部 4 年生（P4）が症例を通して、薬物治療における互いの役割、疾患の診断と治療の知識および薬物の効能と副作用の判定法を学ぶことを目的に、2 回に分けて実習を行った。M5：11 人（希望者）とP4：33 名（全員）を 7 グループに分けた。1 日目にM5 が臨床実習で担当した症例をP4 に提示し、症例の検討を行った。次回までにP4 が処方薬について薬効・副作用を調査するよう指示し、e-ラーニングシステムに掲示させた。2 日目に P4 が調査した副作用判定に必要な身体診察の技法をM5 が説明し、P4 はその技法を体験した。終了後、学生に実習目的と運用を 5 段階で評価させ、後は自由記載とした。

【結果】実習目的の到達度は 3.1、実習運用の総合評価は 3.2。同時期に行った他の事前実習の到達度は 3.6～3.9、実習運用の総合評価は 3.6～4.1。チーム医療実習の運用面に関しては時間数 2.5、課題の量 3.3、難易度 3.0 であった。

【考察】チーム医療実習の到達度、総合評価はいずれも他の実習と比べ、低かった。その一因として実習時間数が少ないことが挙げられる。医学部生と直接討論する実習自体については好評であったが、カリキュラムの都合上、事前実習開始直後に行ったため、すでに病棟実習を開始している医学部生との力量の差が大きく、チームとしては機能しにくい状況であった。来年度以降は薬学部生に対する事前の準備を改善し、よりよい実習にしていく必要がある。